

第5回平戸市総合計画 基本構想起草委員会

議 事 錄

とき：平成29年5月17日（水）14：30～17：30
ところ：平戸市役所3階中会議室

開催日時	平成 29 年 5 月 17 日 (水) 14:30~17:30
開催場所	平戸市役所 3 階中会議室
出席委員 (50 音順、敬称略)	今川亮生、鴨川周二、西サチ子、村上則夫 (4 名)
欠席委員 (50 音順、敬称略)	坂本鏡心、森健司 (2 名)
事務局 (財務部企画財政課)	吉住財務部長、小出企画財政課長、藤山企画統計班長、田中企画統計班主査、山口企画統計班主査、浦川企画統計班主任主事 ※コンサル 2 名
次第	
1. 開会	
2. 財務部長 あいさつ	吉住財務部長
3. 審議会会長 あいさつ	村上会長
4. 議題 (1) 第 2 次平戸市総合計画基本構想骨子案について	(第 1 部について、事務局から説明)
委員	2 ページについて、キャッチフレーズが「夢あふれる 未来のまち 平戸」に決まった。それに合わせて、下の文章は少し変える必要があると思う。例えば、「夢あふれる」という部分について、夢とは何かとか、あふれるとは何かといった説明があったほうがいい。
委員	先日の審議会の中でも、キャッチフレーズを決める時に、それぞれの案について、どういう意図を持って提案したのか説明がほしいという意見が出ていたので、しっかり書いていただきたい。
委員	では、そのように修正していただきたい。

委 員	全体的に、「今」という文言が、漢字のところと平仮名のところがある。特に意味があるのであれば書き分けても構わないが、そうでなければ統一したほうがいい。
事務局	統一したい。
会 長	以前は漢字が多かったが、現在は一般的に平仮名にするケースが多い。例えば「まち」「いのち」も、以前は漢字だったが、今はほとんど平仮名が使われている。
委 員	平仮名のほうが、意味が幅広いということ。
会 長	印象の柔らかさ等もあるのではないか。例えば、「いのち」は漢字で書くと生命体的な意味合いが強くなり、失われてしまったらそれで終わりというイメージになる。一方、平仮名で書くと、私たちの思いや生き方や全てを含んだ総合的な意味の「生」そのものを表すような、生きていた証がずっと未来まで続くというような、非常に深い意味になる。同様に、「いま」「まち」等も平仮名のほうが、意味合いが深いよう思う。
委 員	では、修正をお願いしたい。 次に、3ページについて、市民を主役にするために、書きぶりを変えたらどうかと思うところが3点ある。まず、①の下から2行目の「市民と行政が手を取り合って」のところを、「市民がやれることを率先して行い、行政と共に手を取り合って」にしてはどうか。2点目に、②の下から2行目の「市民とともに」を「市民が一体となって」にしてはどうか。3点目に、③の下から3行目の「そこで、」の前に、「主役は市民一人ひとりです。」と入れてはどうか。
事務局	②は、確かに「市民とともに」では主役が行政になってしまう。

委 員	①については、まちを良くするために、市民に自分たちでやれることを探してもらいたいということを表現できなか。
委 員	おっしゃるとおり。
委 員	「率先して」は入れなくても構わないが、市民が動かなければ始まらないということを強調するためには、それくらい書いたほうがいいと思う。そして、「行政と共に手を取り合って」と続くことで、お互いが向き合ってやっていくという意味合いを表現し、②を「市民が一体となって」とすることで、市民が1つになることも重要ということを表し、加えて、③に「主役は市民一人ひとりです。」と明確に入れて、市民宣言のようにしたらどうか。
会 長	「一体」は、市民と行政が一体ということか。
委 員	行政は行政で努力していると思う。ただ、市民が本当にお互いに協力し合っているのかというところは疑問。私たちは観光地に生きているので、商売している人間だけではなく、街中の市民が観光客に出くわす。市民がという思いを入れられればと考える。
委 員	行政の立場としては、その辺をあまり強く出すと反発されるのを恐れるかもしれないが、市民がやるということを打ち出していいと思う。確かに、「市民と行政が手を取り合って」だけでは、なれ合いのような、弱い感じもする。
会 長	検討していただきたい。
委 員	では、今の3点については検討していただく。 次に、4ページから7ページについて、変更点はないがそれでよい

	か。8ページについては、（1）に生涯学習についての記述が追加されている。
事務局	この5つのポイントの各タイトルについては、案は出たが、まだまとめきれず、前回のまま示している。ただ、括弧書きしている「人」「きずな」「魅力」「産業」「経営」というキーワードは、これでいいのではないか。
委員	（2）の「きずな」は、あえて平仮名にしているのか。
事務局	特に意図はない。「きずな」は第2部でも出てくるが、ここのタイトルのキーワードは全て漢字になっているので、統一してもいい。
委員	（1）について、生涯学習はまちづくりの人材の育成にはつながっていないといった意見だったので、まちを築いていく人材の育成を進めていくということで、例えば最後のところを、「生涯学習への取り組みを積極的に行い、また、この地に生きてまちを築いていく人材育成を進めています」としてはどうか。明らかに自分たちのことと意識されるのではないか。
委員	確かに、自分たちがということが強調される。
委員	主人公は市民という視点から徹底して言っていくといいと思う。
事務局	つなぎ方について、「また、」を入れずに、「積極的に行うとともに、この地に生きて・・・」という形ではどうか。
委員	「とともに」でもいいと思うが、あえて「また、」を入れたのは、生涯学習だけではなく、プラスしてという意味。

委 員	<p>そういう形で検討していただきたい。</p> <p>(5) の最後は「市民との協働と創意工夫により」という表現について、これでは行政が主体のように感じるので、「市民との協働と」の前に「市民の自主性を育て」を入れ、「市民の自主性を育て、市民の協働と創意工夫により」としてはどうか。審議会で、「協働」という文言は好きではないという意見が出ていたが、それを解決する意味でも、市民がやるということを前面に出すことで、協働という言葉に違和感がなくなるのではないか。</p>
事務局	<p>市民の自主性という部分はいいと思うが、市民の自主性を育てるとなると、(1) の「人を磨く」のほうにならないか。</p>
委 員	<p>上から目線のような感じもする。</p>
事務局	<p>ここは「経営を工夫する」なので、行財政についての課題を市民との協働によって解決していくということを表したい。</p>
委 員	<p>「育て」ではなく、「自主性を生かし」にしてはどうか。</p>
委 員	<p>確かに「育てる」ではおこがましいので、「生かす」がいい。</p>
委 員	<p>指摘事項の5番の「未来へのチャレンジ」について、「未来のまちへのチャレンジ」ではないか。</p>
事務局	<p>議事録では「未来へのまちチャレンジ」となっている。ただ、これは具体的な言葉を入れたほうがいいのではないかという例として言われたもので、この言葉でなければいけないということではない。事務局としては、「未来へのチャレンジ」のままでいいのではないかと考えている。</p>

委 員	「未来へのチャレンジ」でいいと思う。
事務局	変更なしとしたい。その他意見がなければ、第2部に進みたい。
事務局	(第2部について、事務局から説明)
委 員	15 ページに寺院と教会の見える風景を追加するということだが、確かにそうだと思う。それによって、どれかを減らすことになるのか。
事務局	例えば生月大橋と平戸大橋を一緒にするなど、なるべく減らさない方向で考えたい。写真が小さくなることは避けたいので、デザイナーと相談して調整したい。
委 員	文字が多いので、写真を見れば分かるようなことは省いて、必要最小限にするといい。
事務局	検討する。
委 員	15 ページについて、私が平戸に初めてバス旅行で来た時に強く印象に残ったのは、平戸城と寺院だった。お寺では特に松浦公の菩提寺や、松浦公の第2・第3婦人がいたお寺の話を聞いて面白かった。城下町と平戸ツツジという印象もとても強く残っている。15 ページのところでも、お城とのつながりという形で見せられないか。今の観光客はそういうことを求めてないのかもしれないが、もう少し平戸の良いところを出せないものかという思いがある。
事務局	15 ページは、市民アンケートの意見を基本に、それだけでは人口の多い北部のものに集中してしまうので、地域のバランス等を加味した緯がある。

委 員	殿様との関係で言えば、松浦史料博物館は一番の歴史の宝庫。
委 員	確かに、メインの観光スポットだと思う。
委 員	これは観光資料ではないので、増やすことが難しければ、このままでいいと思う。
委 員	生月大橋は 14 ページにも載っているので、そこにまとめることができないか。
事務局	スペースの関係もあるため、説明文を全部カットするなどしないと、増やすことは難しい。市民に向けたものなので、説明は必要ないという考え方もあるかもしれない。
委 員	知らない人もいるので、説明はあったほうがいい。
事務局	起草委員会の話でも、宝を知るという部分が出てきた。知らない人も多いので、説明書きは必要だと思う。
委 員	<p>文章を必要最小限にすれば、見やすくなる。関心がある人は自分で調べる。</p> <p>次に、16～19 ページについて、危機意識を持つてもらうために、19 ページの矢印の下の所に、例えば「人口減少の先は・・・」など、目立つように書くと、ただのデータではなく、見る人に訴えるものになる。</p> <p>次に 20 ページについて、象徴的なことを抜き出して示していれば、大体の中身がつかめるので、それぞれのタイトルの右側に、その文章の中で使われている象徴的な言葉をサブタイトルのような形で出して、例えば、「これまでの平戸市」であれば「『ひと（H I T O）響きあう宝島 平戸』を掲げ」、「社会の変化」であれば「人と人のつながり方など大きな変化」、「国の動き」であれば「まち・ひと・しごと創生長</p>

	期ビジョンが策定」とか、「これからの中戸市」であれば、「市民一人ひとりが輝けるまちに」といった形で書いてはどうか。
委 員	今の状態では単純に文字ばかりで寂しい。ただ、サブタイトルを入れたときに、デザイン的に見やすいかどうか、イメージが湧かない。
事務局	デザインについては、フォントを変えるなどして見やすくできる。ピックアップして出した時に、スタイルが合うかなど、デザイナーと相談したい。
委 員	21 ページの第2節の文章について、「中戸市」が何度も出てくるので、まちづくりデッサンの前の「中戸市の」を削除してはどうか。
事務局	最後の「中戸市の」は削除したい。 主語が、前半は市民・自分で、後半は行政・役所になっているという指摘は、それぞれのプロジェクトの文末の文言が、「進めます」「行います」といった表現になっているところを言われているのだろうと思う。事務局としては、これまでに書いたようなことをするために、市としてはこういうふうにしますという作り方にしているが、この点についてはどうか。
委 員	「みんなでやるばいプロジェクト」だから、ここでもまた市民向けに何か一言入れれば、主語の問題は解決するのではないか。
会 長	現実的には資金も人も行政のほうが手当てするので、説明のあり方として、2部はどうしても行政の側からの書き方になる。例えば、24 ページの共通プロジェクトの青い囲みにある、「『まちづくり未来図』にある未来像実現のため（中略）取り組みが盛んに行われるまちづくりを進めます」と書くと、行政がやるように読めてしまう。そこは「進めましょう」といった書き方にすれば、みんなでやるよう取れる。

	最初のプロローグや1ページでは「描いていきましょう」「進んでいきましょう」になっていて、第2部では「行います」と、主体が変わっているので、初めて読んだ人には違和感がある。
事務局	プロローグや第1部は、ストーリー性を持たせた書き方をしていることもあり、「……しましょう」という形にしている。
会長	審議してきてそういう経緯を知っている我々には違和感はないが、審議会で指摘が出たということは、初めてこれを見た方にとっては違和感があるということ。その合理的な根拠を説明するか、それができなければ、同じ書きぶりで最後まで通すべき。
事務局	今の状態では、主語が変わることが不自然かもしれないが、最終的なデザインの段階で、プロローグや第1部のストーリーの部分と他とを区別する作り込みにする予定なので、理解していただけるのではないか。
事務局	みんなでやるばいプロジェクトには、まちづくりプロジェクトと地域づくりプロジェクトの2つがあるので、まちづくりプロジェクトは行政がやること、地域づくりプロジェクトは市民に頑張ってもらうプロジェクトという分け方についてもいいかもしれない。
委員	前回の計画の構想は、「します」ではなく、「必要です」という書き方になっている。今回は決意を持った書き方で「します」と書くということ。
会長	この段階になつたら前回の書き方では間に合わない。今は、市民全体が危機感を持って実際に具体的に動いていかなければいけない。そういう覚悟を持って、ここでは「行います」「やります」と書いてある。主体は行政ではなく、市民との協働によって、力を合わせてやっていくことという合理的な説明ができれば、今の書きぶりを変える必要はない。

事務局	5つのポイントは、逆に、強い決意を表す「します」という表現に変えた。プロローグ等との言い回しが違う点は、そういう仕分けをしていくことで理解してもらいたい。
会長	こうせざるを得ないと思う。今回の計画は、行政が主導するところもあるし、市民の皆さんに力を出してもらうところもあるので、前回の計画から一歩進展して、覚悟を持ってやるという書き方を示せば、市長も市民も納得すると思う。
委員	23 ページの「まちづくりプロジェクト」の最初のところに書いてはどうか。例えば、「10 年後の市の未来像を実現していくためには、○○が必要で、市民全員が覚悟を持って取り組まねばならない。そこで、このようなプロジェクトを進めていきます」といった説明を入れれば、書きぶりを変える必要はないし、後の文章も生きる。
事務局	検討する。
事務局	この「主な取り組み」について、前の総合計画でできた部分、できなかつた部分、今の時代にマッチした部分等について各課にヒアリングをしたものを持げている。基本構想というのは、本当はボトムアップで考えたほうがいいとは思うが、議決を受ける必要があるため、基本構想を先に作るという流れで進めている。今後は、基本計画、実施計画も併せてヒアリングをするので、主な取り組みは変わる可能性がある。
委員	25 ページの「主な取り組み」の水産の項目について、「資源管理と環境保全」も大事だが、それ以上に緊迫した問題は農業と同様に、新規就業者や担い手の確保。その辺は水産課からは出ていないのか。
事務局	今言われた部分は水産課から頂いている。多くの項目から、今回はボ

	リュームや他の部分とのバランスの関係で、この項目だけを挙げている。最終的に何を挙げるかは、引き続き水産課と協議をしながら決めていきたい。
会長	「新規就農者の確保」のところを「新規の一次産業就業者」としてはどうか。
事務局	そうすれば農業と水産業の両方が含まれる。「第一次産業後継者の確保」としてもいい。
委員	<p>アンケートを見たら、一次産業を希望している人は少ない。これは今に始まったことではなく、十何年も前からこういう傾向があった。保護者が若者を外に出しているということで、保護者向けの説明をしているという所もあった。</p> <p>次に、26、27 ページについてだが、プロジェクト 2 の中に「共生社会」とか「人権感覚」という言葉を入れていただきたい。先ほど、人権は教育の中にひとくくりにしたという説明があったが、人権のいろいろな取り組みの中で人権感覚が不足していると、国も県も明確に出している。例えばいじめの問題は、おかしいという感覚がないから、つい周りに流されてしまう。人権感覚を持つようになれば、高齢者とか障害を持った人たち等に対する思いやりが出てくるのではないか。例えば 26 ページの青い囲みの下から 2 行目を、「伸び伸びと子育てができる環境づくりに努めるとともに、共生社会の基盤となる人権感覚を育み、次代を担う子どもたちが」として、最後の行の「自ら行動する力」のところを「自ら行動できる力を身につけるよう教育を推進します」とするといいのではないか。</p>
事務局	人権感覚という表現は、一般的に用いられている言葉なのか。
委員	人権教育に携わっている方たちは知っている。今、一番の課題として

	<p>前面に出されている言葉だが、残念ながら一部のみで進められているというのが実情。原因は、人権という言葉に、重いと感じたりするから。人権というのは一人ひとりを大事にするということで、基本さえ押さえていれば、「人権」という言葉は使わずに、みんなが共に生きられる社会という表現でもいい。「共生社会をつくるための人権感覚」とか、「共生社会を支える」といった表現でもいいので、とにかく「共生」と「人権感覚」という言葉を入れてほしい。一番下に「自ら行動する」とあるが、感覚が養われないと行動できない。</p>
事務局	教育委員会とも相談して決めたい。
委 員	感覚を養うためには、子どもの時からやらないと難しいので、人権教育などの学校でも毎年計画の中に入れてやっている。
事務局	人権についてあまり知らないという面もあるが、正しい人権の普及啓発をすることが大事。
委 員	私が他の地区の中に入って話をした時には、弱者に対する思いやりが自然に行動として現れるような教育をしてほしいという意見をよく聞いた。人権というのは特別なことではなく、ごく当たり前の普通のこと。今、使われている言葉で入れてほしい。
事務局	最終的には教育委員会と相談の上、決めたい。
委 員	次に、27 ページについて、「健康寿命」という文言は入れられないか。
事務局	福祉と協議をさせていただく。
委 員	日本一にならないまでも、健康寿命という言葉は心に残っている。

	<p>27 ページの上段の文について、「さらに、」の後が1つの文になってしまっており、長過ぎるので、例えば、「自分らしく健康で生きがいやゆとりをもって生活し、健康寿命を伸ばします。」などとして、1回区切って、健康面と社会参加の2つの文に分けてはどうか。</p>
事務局	<p>検討する。</p>
委 員	<p>次に、28について、上段の文も長過ぎる。「また、」以降は、2つの事柄が書いてあるので、「市民の生命と財産を守るための防災、防犯体制を充実します。」として、切ったほうがすっきりする。</p> <p>次に、29ページについて、上段の4行目の「目指します」は漢字だが、28ページの上段の最後の行では「めざします」と平仮名になっているので、統一したほうがいい。</p> <p>「主な取り組み」の最初に市民全体でのおもてなしが出ているのは、とてもいい。観光地で生きているから、事業者だけではなく市民全体でという表現を、市民が分かる形で入れられればと思っていた。以前、街中で観光客から教会への行き方を尋ねられ、教えてあげたらとても喜ばれた。外国人の観光客から声を掛けられると尻込みしてしまうとかいう話は以前から耳にする。その辺をうまく文章にできないか。「市民全体でのおもてなし」は、まさに今の平戸に欠落していること。市民にその心構えを持っていただき、もっと話し掛けたり、聞かれたことに対応できるようになる取り組みが必要。</p>
委 員	<p>観光施設や売店の人ではない、地元の人と話したことが非常に印象に残っているという話はよく聞く。東京から生月に来て住み着いた人がいるが、田舎暮らしをしたいと考えて全国を回っていた中で、平戸の山田教会に行った帰りに、地元の人と話したことが印象深かったということで、定住したと言っていた。市民全体でのおもてなしとか触れ合いは非常に大事。</p>

委 員	<p>私の恩師も、元は長崎の人だったのだが、平戸に旅行に来た時に、地元の人に「おはようございます。どこから来ましたか」とあいさつをされたことがきっかけになって、平戸に引っ越してきた。だから、市民がおもてなしをするというのを主な取り組みの一番目に挙げているのは非常に的を射ている。</p> <p>加えて、そのことを上の文章にも入れるとさらにいい。市民がこれを読んだときに、自分が主役なのだという感覚が出てくる。ある観光地のおばちゃんで、英語と中国語と韓国語のカードを作つておいて、「ありがとう」とか「こんにちは」と言いたい時に、見せている人がいた。すごくいいと思った。どんどん接したり、会話したりすることなどで、いい観光地という印象が残る。上にも市民がおもてなしをすることについて、ぜひ入れてほしい。</p> <p>常に心構えとして市民一人ひとりがどんな場面でも対応できるようにするとか、観光地の市民としての心構えを育むとか、他にいい表現があればそれでも構わない。関係者は努力しているので、市民の部分が一番大事。そういうことを入れておけば、「主な取り組み」を見て、「ああ、そうだ」と思えるのではないか。</p> <p>今まででは、市民がおもてなしの主体者だという視点はなかった。</p>
事務局	<p>確かに、観光業や飲食業関係に特化したものは昔からあるが、全体というのは恐らく初めての書きぶりだと思う。具体的に、どのように市民の方にやってもらうかは、難しいところ。</p>
委 員	<p>そういう動きは出ている。平戸検定などもやっているし、ボランティアも出てきている。少しずつ変わってきている。平戸検定については、社会教育委員会が平戸検定ジュニア版を作つて教育委員会に持つていった。予算化するという話だったが、その後分からぬ。</p>
事務局	<p>小中学生の平戸検定の話は聞いている。教育委員会には、小学生があいさつをしてくれてうれしかったといった手紙が来ている。そういう人</p>

	たちはそれを一生忘れないで、口コミで、平戸に行ったら子どもが素直で優しかったということを広げてくれる。そういう教育を小さい時にしておけば、大人になっても続いていくのではないか。
委 員	子どもたちも、いろいろな平戸の宝を知ることで、物おじしなくなる。また、今、英語教育を進めているということで、外国人観光客の対応の面ですごくいい。
委 員	ウェルカムガイドが不足している。その養成とか、体験型観光もポイントになってくる。
事務局	ウェルカムガイドについては、基本計画のところ等で入れられればと考えている。 体験型観光については、確かに盛んに受け入れをしているので、観光課とも話をして、主な取り組みにするかどうか検討したい。
委 員	活性化のポイントになる可能性はある。
委 員	数年前に北海道のニセコ地区に行った。スキーで有名な所で、冬だけの観光地だったためにバブルの崩壊とともに廃れてしまったが、今はフルシーズンの体験型観光地として見事に再生されて、食や宿泊をはじめとして雇用をかなり生んでいる。ガイドもボランティアではなく職業として雇用されている。平戸にもそういう可能性があるのではないか。
事務局	体験型観光については、入れる方向で考えたい。
委 員	上段の5行目に「持続していく地域に取り組まなければなりません」とあるが、この表現でいいか。 31ページの「地域づくりプロジェクト」に進みたい。大きな将来像とやりたいことのみを出すという案も出ていたが、この形でいいのでは

	ないかと思う。
事務局	<p>各地区の内容については、この案を各地区の地域協議会に示して、修正等の意見が出れば、それをそのまま載せたいと考えている。</p> <p>中部には、区長、校長、議員、JAの方等で構成される自治振興会というものがある。南部は22日に区長の連合会があるので、そこで説明をする。北部については、代表のところに相談に行って、臨時会のような形で区長さんの会等を開いてもらえないか、お願いしたいと思っている。</p> <p>第1部で、5つのポイントの（4）の産業のところで、「起業誘致と雇用創出に努めるとあるけれども、それでは役所の話になってしまいます。企業誘致については、どういう企業を誘致するかとか、さらには、自分たちで仕事をつくっていく、創業というところをもっと出してもいいのではないか」という意見だった。その点について、何か意見がないか。</p> <p>今は地方創生で日本全国が企業誘致に力を入れており、インフラが平戸市よりも整っている所も多い。もっと地域の資源を生かした産業等にも目を向ける必要があるのではないかと思っていた。例えば呼子のイカは、半分は平戸から行っているので、それを平戸に取り戻せと、ずっと水産課に言っている。そして、平戸で加工したり、平戸で食を提供したりするようなまちづくりを、10年、20年かかってもしましょうという話をしている。</p>
委員	確かに、それは入れたほうがいい。市民の間でも、例えば、これからは介護をしながら働くかなければいけない人が増えていくので、ネットで仕事をしながら介護もやっていくとか、街中だけではなく田舎でも金を儲けることができるというような視点も出ている。起業誘致も人任せではなく、何かアイデアがあるのではないか。実際、既に動き始めて自ら仕事を生み出している人もいるので、指摘の内容はぜひ入れるといい。
事務局	テレワークについては、企業は既に取り組んでいる。平戸もやっと今

	年、ブロードバンドがほぼ全域に行き渡るので、都会に出ていた人が自分の親御さんの介護のために、平戸に帰ってきてインターネットで仕事をするという働き方も出てくると思う。
委 員	支える何かがあれば、戻ってくる若者も増えるかもしれない。付け加えていただく。
	会議終了